

令和4年度 第2回丹波市学校給食運営協議会 会議要旨録

- 開 会 令和4年7月28日(木) 午後7時30分
- 閉 会 令和4年7月28日(木) 午後9時00分
- 会 場 氷上住民センター 大会議室
- 出席者
- | | |
|---------|----------------|
| 有識者 | 足立 幸広 委員 (会 長) |
| 小学校長代表 | 中澤 正樹 委員 (副会長) |
| 公募委員 | 細谷 圭助 委員 |
| P T A代表 | 中原 由美 委員 |
| P T A代表 | 堂東 貢祐 委員 |
| P T A代表 | 足立 友和 委員 |
| P T A代表 | 畑 麻依子 委員 |
| 学校医代表 | 三浦 博幸 委員 |
| 中学校長代表 | 吉川 景敏 委員 |
| 行政機関職員 | 田 村 猛 委員 |
| 施設長代表 | 高野 和典 委員 |
| 栄養教諭代表 | 山内真理子 委員 |
| 有識者 | 前田 孝子 委員 |
- 欠席者
- | | |
|---------|----------|
| P T A代表 | 岡 樹香 委員 |
| P T A代表 | 佐藤 彩香 委員 |

〔事務局〕

教育部長	藤原 泰志
教育部次長兼学校教育課長	池内 晃二
教育部次長兼教育総務課長	足立 勲
教育総務課 学校給食係長	堀 典子
教育総務課 主幹	坂 東 守
教育総務課 主幹	吉岡めぐみ

次第 1 開 会

- (足立次長) 只今から、第2回丹波市学校給食運営協議会を開催いたします。
なお、本会議の会議録を作成するにあたりまして、録音をさせていただいておりますことをご了承ください。
また、この会議は公開して開催しております。傍聴者が来られる場合がありますので、ご承知置き願います。
それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第2あいさつを足立会長よりお願いいたします。

次第 2 あいさつ

(足立会長) 皆さんこんばんは。

毎日暑い日が続いておりますが、委員の皆さまはお変わりなくお過ごしでしょうか。学校現場では、夏休みが始まってちょうど一週間で過ぎたところです。夏休み開始が以前より一日遅くなり、今は7月22日から夏休みになっているのですが、8月25日まで30日間あります。令和2年度の夏休みは、コロナの影響で3月、4月、5月と学校が休業となっていましたので、その分夏休みが短くなり、8月の最初と終わりに学校があり、初めて8月に給食を食べるということをしました。

さて、今回の協議会から、第3次丹波市学校給食運営基本計画の策定についてご協議いただきます。この後、事務局からも説明があると思いますが、アンケート調査の結果を読んでいますと、いろいろなご意見がありました。「感謝している」「喜んでいる」「子どもも大好き」「ありがたい」など、大変肯定的なご意見が多数あり、安心いたしました。

本日は、前回確認しました計画の構成1から3までについてご協議をお願いいたします。

コロナも拡大しつつありますので、時間も早く終了したいと思います。スムーズな進行にご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

(足立次長) ありがとうございます。

それでは議事に入ります前に、本日、柏原地域PTA代表の岡委員から欠席のご連絡をいただいております。また、欠席のご連絡はありませんが、市島地域PTA代表の佐藤委員がまだおみえになっておりません。

それでは、次第3の議事以降の進行は足立会長により進めていただきます。

次第 3 議 事

(足立会長) それでは議事に入ります。(1)学校給食アンケート調査結果についてです。事前に送付されお目通しいただいていることと思いますが、資料1について、事務局から説明をお願いします。

〔 【資料1】により事務局説明 〕

(足立会長) ありがとうございます。それでは、このアンケート結果につきましてご質問やご意見はありますか。

山内先生、栄養教諭の立場からいかがでしょうか。

(山内委員) いろいろなご意見をたくさんいただいております、ある意味、学校給食に関心を持っていただいていると感じ、ありがたいなと思いながら読ませていただきました。給食の量やいろいろなことが書かれておりま

したが、その中でも、コロナ禍により給食時間の楽しさが少し減っているのかなと感じました。

(足立会長) ありがとうございました。他にご意見ご質問はないでしょうか。

(委 員) 何点か質問があります。
今回のアンケートはウェブで実施と説明がありましたが、それは紙ではなくて、アンケートの回答も集計もパソコンかメールでされたのですか。

(事務局) はい、そうです。

(委 員) そうですか。この方法は今回初めてですか。これまでもされていたのでしょうか。

(事務局) 昨年度から、教育委員会が実施します保護者を対象としたアンケートにつきましては、この Google フォームというサイトを使って実施しております。

(委 員) 少し理解できていないのですが、ホームページか何かにこの用紙が載っているのですか。

(事務局) 6月2日付で委員の皆様へ「アンケート調査について」という文書を送らせていただき、アンケートの内容及び実施方法について予めご連絡をさせていただいたと思います。アンケート実施にあたりましては、学校を通じまして、保護者にアンケート調査のお願いの文書を紙ベースでお配りしました。学校によってはメールで配信されているところもありますが、そこに、今回実施いたしましたアンケートサイトの URL、またスマートフォンを使用して回答される保護者も多いので、QR コードを載せて、そこから入っていただくと、アンケートに回答していけるということになっております。

(委 員) わかりました。
今回の回答率が 52.3%で、平成 29 年は 90%、その前も 73%でしたが今回は 52%と下がっているその原因は何であると考えられますか。コロナとかの原因はありますか。何が原因だと思われませんか。

(事務局) 今回のアンケート回答率は 52.3%でしたが、教育委員会が実施しておりますウェブサイトの調査結果ではほとんどが 50%前後の回答率となっております。今回の調査も同じく、52.3%という結果になっているのですが、過半数のご意見ということで、事務局としましては受け止めております。

(委 員) 前回は 90%でしたが、方法が変わったからか、状況が変わったから下がっているのか、その辺りはいかがお考えですか。

(足立次長) 先程も説明しましたとおり、今回の給食アンケートに限らず、ギガスクール構想に関するアンケートにつきましても同じ方法で実施させていただきましたが、それも同様の50%程度の回答率でした。前回のアンケート調査の回答率は確かに高かったのですが、今の傾向からしましても、今回の52.3%という回答率は妥当なところであると思っております。

(委員) 5割をそれで良しとするのか、私はあまりパソコンやスマートフォンを使用しないのでわかりませんが、その辺りに問題はないのでしょうか。もう少し、回答率を上げる方法はなかったのですか。

(足立会長) 私は前回も前々回のアンケート実施の際も委員でした。ウェブサイトを利用したのは今回が初めてです。以前は紙でのアンケート実施だったので、アンケート用紙を教師が一言「大事なアンケートだからちゃんと出すように」と伝えながら配って実施すると回答率は上がります。ですが、手で集計しなくてはなりません。一人一台タブレットを持つ時代に、また、保護者負担も考えると、今回のウェブサイトによるアンケート方法は妥当だと思います。集計も自動的にできますし。回答率50%の調査の信頼度が、70%、90%のものとは比べて著しく劣るものだという評価になると、それはまた別の議論になります。今の時代にあった方法で実施しているわけですから、今回の給食アンケートだけ昔の紙方法に戻すのは妥当的でないと思います。アンケート用紙の配付、回収、集計など、さまざまな負担を考えても、良い方法だと思います。

(委員) わかりました。早くにここまで結果をまとめていただき、大変な苦労だったと思います。ありがとうございます。それと、小学生と中学生に分けるとか、3センター毎に分けることは出来ますか。

(足立次長) 先程もお伝えしましたとおり、Googleフォームを活用しての集計をしておりますので、委員が言われたクロス集計などは出来ません。
お配りしております資料の集計でアンケート結果とさせていただきたいと思っております。

(委員) わかりました。

(足立会長) 他にはよろしいですか。
それでは、次に進みます。(2)第3次丹波市学校給食運営基本計画策定(案)について、1計画の策定、2学校給食の意義・役割、3現状と課題について事務局から説明をお願いします。

[【資料2】により事務局説明]

(足立会長) ありがとうございます。
第3次計画の項目1から3まで説明がありましたが、何かご意見やご質問はございませんか。

(委員) 3頁の下から6行目の「地域の文化や伝統に対する理解と関心を深め」とありますが、これはどのようなことですか。具体的に教えていただきたいです。

(足立会長) その前文に、「地場農産物の活用や郷土食の提供を通して」とあります。県や国でも言われていますが、伝統的文化の継承や地産地消、いわゆる社会的課題を食育の分野で重視していくということです。
栄養管理を軽視するわけではありませんが、郷土食や行事食を学校給食として子どもたちに提供し、それに関連して学んでいこうということで、すでに丹波市の学校給食でもいろいろと取り組んでいます。具体的な取組について、山内先生からご説明をお願いできますか。

(山内委員) 例えば、地域の文化ですと、12月1日に小豆ご飯をいただくとか、昔から受け継がれている地域の食文化を給食に取り入れていることなどです。

(委員) 他にもなにか取組はありますか。

(山内委員) 12月1日の小豆ご飯の他にも、半夏生にタコ飯を出すとか、地域に根付いている食文化を取り入れて、毎年、計画を立てています。

(委員) ありがとうございます。

(足立会長) 他にございませんか。

(委員) 同じく3頁の下から4行目「カリキュラムマネジメントの上からも給食の時間と各教科等における食に関する学習を相互に連携を図りながら」とありますが、この各教科とは家庭科や理科とか他の教科との関連であると思いますが、実際の現場ではどのようにされているのでしょうか。

(足立会長) 学校現場ではかなり実施されています。具体的に中澤校長から説明していただきます。

(中澤副会長) 学習指導要領においても、カリキュラムマネジメントに重点を置かれています。その中でも、各教科とのつながりについて非常に重視されており、食育については家庭科だけではなく、いろいろな教科で食育に取り組んでおり、様々な角度から学べるということになっています。給食は本当にいろいろと工夫をされており、季節の食べ物、地産地消、いろいろな観点から食育を進めていて、多面的に、社会、音楽等含めて、どこかで関連させて学べる仕組みになっており、それを学校現場で進めているところです。

(委員) ありがとうございます。

(足立会長) 既に、学校現場ではかなり各教科と関連させて食育に取り組んでい

て、それを今後も継続して行っていくということです。

他にいかがですか。PTA代表の委員からもいかがでしょう。

(委員) カリキュラムマネジメントの点ですが、実際に中学校3年生の子が今年初めて夏休みに小豆を栽培するというので種子を持って帰ってきました。それで、子どもが「小豆はどうやって収穫するの」と聞いてきました。私が小さいころは誰に教えてもらうわけでもなく、当たり前のこととして知っていましたが、今は家庭で伝えられないことを学校で教育の一環として教えていただいているんだと思いました。5年前、上の子の時にはそういった取組は無かったように思いますので、年々、取組が充実してきていることを実感しています。

(足立会長) ありがとうございます。他にいかがですか。アンケート調査の結果についてでもかまいません。ご意見やご感想はありませんか。

(委員) 学校を卒業してから給食を食べていないので、今、どのような状況で給食を提供されているのか分からないのですが、家庭の会話では、ありがたい、美味しい、感謝しかないと聞いております。それが事実かと思えます。

(足立会長) ありがとうございます。

(委員) 地産地消についてですが、アンケート結果にもありましたフードロスについて、日本でも問題になっていますが、その中で、地元の農産物を地産地消ということで給食用に購入されていると思います。中には味は同じですが、規格外で売り物にならずに廃棄されるものもあると思います。そういう規格外で一般販売できないような野菜をいくら安く給食用に購入して使うことはできないかなと思いました。今年に入り物価高騰で光熱費等も上がってきていますので、給食費が値上がりすることがないように、選択肢の一つとしてそういうことができれば、コストが抑えられ、且つフードロスの観点での食育につながるのではと思います。家庭でも賞味期限が切れたりして廃棄されるものがたくさんあります。子どもたちが成長していく上で「食べる」という行為はずっと続くものなので、廃棄される規格外の野菜の有効活用を検討していただきたいと思いました。

(足立会長) ありがとうございます。

給食アンケートにも食品ロスや食材費の高騰による給食費の値上げを心配するご意見がありました。その上にオーガニック食材を取り入れるとなるとますます給食費が上がるのではないかとということも書かれていましたが、市としての物価高騰への対応として何かありますか。

(足立次長) コロナ禍や世界情勢による物価高騰等が懸念されておりますが、そのような中で給食の材料費についても既に数パーセント上がってきております。その中で、食材費高騰分が給食費の値上げにつながらないようにと考え、今年度に限り、高騰分相当を市費で補ってほしいと、

6月に補正予算を組ませていただきました。この対応により給食費を値上げすることなく、引き続き栄養バランスのとれた質も量もこれまで通りの給食を子どもたちに提供していきたいと思っております。

(足立会長) ありがとうございました。他にいかがですか。

(委員) 毎日おいしい給食をありがとうございます。保護者としては、献立についても季節感があり、家庭では作って食べないような物を出していただいているので、家庭でもよく給食のことが会話にあがっております。大変にありがたいです。本当に感謝しています。

(足立会長) ありがとうございました。他にいかがですか。

(委員) 4頁の食育の取組のところ、「ちょこっと食育」とありますが、これは短い時間の食育という意味でしょうか。栄養教諭の先生方はセンターでの栄養指導、学校での食育指導もあり大変お忙しくされていることと思います。同じ頁の下から2行目に「栄養教諭を中核にすえて」とありますが、これまで食育指導をされてこられて、食育が十分にできたと考えられておられるか、また、何か課題としてあるのか等を教えていただけたらと思います。学校給食において食育は本当に大切なことなので、栄養教諭さんの現状、問題点を具体的に教えていただけると次の具体的取組の策定に向けても良いかと思います。

(足立会長) 山内先生の回答の前に私から「ちょこっと食育」について少し説明をさせていただきます。兵庫県教育委員会が提唱しており、各学校に出している指導の重点の中にも書き込んであるのですが、評価・領域・目標の実現を前提として、題材としてそれにまつわることをどの分野においても食育を実践することが出来るということです。つまり、食育を1時間がつつりと学ぶというのではなく、あくまでも各教科の目標に迫りつつ、教科を指導するに当たり食に関する内容や教材を取り込んで実践していく食育の指導方法を「ちょこっと食育」といい、推進しています。どの教科のどの領域でも食べることに關する題材が学べることとなります。中学2年生の評論文にも題材として食材が出てきており、教科の目的は文章を読み取ることですが、題材は食材です。そういう幅広く、食育を実践していくということで、兵庫県教育委員会では、「ちょこっと食育」と名付けて小・中学校に推進しています。

ちなみに、文部科学省主催の会議に出ていた時の話ですが、兵庫県は全国の中でも食育の取組が先進的で実践が進んでいる方です。栄養教諭の配置も全国で3番目ですし、「ちょこっと食育」として各教科でこのような取組をしているところは全国的にもあまりありません。ただ、課題としては、まったく取組が進んでいないということはありませんが、小学校に比べ中学校をもう少し進めていければというところでは。

この後、山内先生にも補足をお願いしたいと思いますが、食育の取組自体については、丹波市は大変進んでいると思います。いずみ会と

の調理実習は市内の全中学2年生が取り組んでいます。最近はコロナによりできていませんが、このような実践は県下でもほとんどありません。いずみ会の方にレクチャーしてもらい、和食の話や丹波産特産物の話を聞いたりして勉強しています。調理実習は家庭科の分野ですが、地元食材等の話を聞いて勉強するという食育への取組につながっているわけです。

(山内委員) 会長が言われたように、「ちょこっと食育」とは時間が短いからちょこっとではなく、ちょこっとの回数を何度も行うという感じです。例えば、給食前の時間を少し活用して、南瓜、冬瓜、西瓜等、「瓜」という漢字を使う食材がたくさんあることを伝えたりと、食育に1時間じっくり取り組むのではなく、ちょこっとの時間で子どもたちが楽しみながら学べるように「ちょこっと食育」を進めております。

食育を推進する中での課題について問われていましたが、食育指導はまだまだ推進途中にあります。丹波市6名の栄養教諭が学校と協力し、連携を図りながらこれからも少しずつ進めていきたいと思っております。

(委員) 実際にはどれくらい学校に行かれていますのですか。

(山内委員) 学校の状況や担当している学校数などにより回数は違うと思いますが、私の場合、週2回は自分の配属校で、週1回は担当校に行っています。

(委員) 本当に大変だと思います。全ての学校、学年を回られるのですか。

(山内委員) 年間を通して全ての学校、学年に行っています。中学校については給食時間は時間的に厳しいので、学年集会時等に何うようにしています。

(委員) 食育に対して、学校の先生方の受け取り方、様子はいかがですか。栄養教諭の先生にもっと来て欲しいとか。もう十分だとか。また、何か改善できることはありますか。

(中澤副会長) 栄養教諭の先生にはいつも情熱を持って食育にあたっていただき、もっと学校に行きたいと意欲的にしていただいているのですが、学校現場にも様々な課題があり、コロナの影響もあつたりしてなかなか思うようには進まないところです。栄養教諭の専門的知識をいろいろな切り口で優しく語っていただくことを大変ありがたく感じており、子どもたちのためにも、できるだけ先生方に学校に来ていただきたいと思っています。学校にも課題がありますので、計画的に連携をとりながら進めていきたいところです。

(委員) 年に1回と言わずに、年に数回、希望が現実になるようにして欲しいです。

(足立会長) 栄養教諭を中核にすえて、と資料に書いてありますが、食育推進も給食指導も栄養教諭だけが担うものではなく、栄養教諭に任せておけばよいというものではありません。以前はそういう傾向がありましたが、今は学校の教職員と栄養教諭が連携して、各授業に入っていくと大きくチームティーチングで授業を作り上げていくということです。今はコロナでやりにくいのですが、給食の準備の時から片付けまで見ていただき、給食時間の終わりの頃に、ポイントとなる講話をしてもらうといったことを春日中学校で行いました。氷上中学校のようにたくさんのクラスがあると難しいのですが、年に1、2回は必ずできる栄養教諭の取組もあります。コロナで進めにくいところもありますが、学校側はどちらかというと来ていただきたいです。今後も引き続き進めていきたいと思います。

(委員) 学校側の受け入れ態勢、食育に対する理解度は大切であると思います。食育は栄養教諭だけでなく、教員全てで取り組んでいくということですね。

(足立会長) はい、そうです。
他に何かご意見はございませんか。

(委員) アンケートの結果を見させていただいて、同じ材料なのにこれは美味しい、これは不味い等、皆さん好きなように言われているものだと思います。コロナの影響で今は仕方がないのかもですが、給食を食べたことがないからアンケートに答えにくいという意見が多数ありました。過去には給食を試食できる機会があったということですか。

(足立会長) ありました。2、3年前に柏原・氷上学校給食センターで親子の試食会を兼ねたセンター見学会を実施しました。その時は、29組ぐらいの定員で行ったのですが、申し込みはその3倍くらいありました。
また、健康課の食育推進会議での取組で、市の食育フェアを丹波の森公苑でし、そこで学校給食の試食イベントがありましたが、アンケートでも試食会をして欲しいという意見が多かっただけあって、そのブースは人気がありました。
他にいかがですか。

(農林振興課長) 5頁の地産地消の取組のところ、地場産の使用目標値は30%の記載となっておりますが、前は36%だったと思います。目標数値が変更された経過を教えてください。

もう一点、6頁にグラフが縦に並んでいますが、第2次計画のように下の月別のグラフを別頁に広めに載せてあるほうが見やすいと思いました。それと、11頁の給食調理員の状況のところ、本文では会計年度任用職員、グラフ内には非常勤職員と記載してあるのはなぜか、単なる記載ミスでしょうか。

(足立次長) まず5頁の地場の目標値についてですが、前回第2次計画の策定時は、地場野菜使用割合の目標値を36%としておりましたが、指標の見

直しをし、教育振興基本計画においても主要 15 品目の地場野菜の使用割合 30%を目標値として改めています。それから、6 頁のグラフについてはもう少し見やすいようにする必要がありますかと思ひます。11 頁のご指摘はその通りです。グラフの表記は会計年度任用職員の間違ひです。訂正いたします。

(足立会長) よろしいですか。

(農林振興課長) はい。

(委員) 5 頁の地産地消のことです。下から 2 行目の「地場農産物の使用割合を高める新たな仕組みづくりが重要となります。」とありますが、5 年前もそうだったと思うのですが、やはり地産地消が進まないのは組織づくりが十分ではないということなのかと思うのですが、具体的に方策がこの後の取組に出てくるのですか。

もう一点、11 頁の給食調理員の状況についてです。青垣学校給食センターですが、「正規職員の退職に伴う補充の予定はなく、すでに会計年度任用職員に頼らなくてはならない状況にあり」とあります。下のグラフからも非常勤の方が多くなるのは分かるのですが、正規職員の補充がされないというのは市としての方針なのですか。

(足立会長) 2 点ありましたが、事務局いかがですか。

(足立次長) 5 頁のところは課題として挙げております。前回と同様の書き方になってはいますが、これから先の 5 章の「具体的な取組について」で具体的な方策を記載していくこととなりますので、ここでは現状と課題ということで挙げさせていただいております。

それと、11 頁の青垣学校給食センターの調理員についてですが、現在市内 3 つのセンターを運営しております。うち、青垣を除く 2 センターは調理業務を委託しております。ここにもありますように、少子化、児童・生徒数の減少等により食数も年々減っています。その時に、稼働率の問題も出てくる中で、青垣学校給食センターの民間委託も含めて検討しているところであり、正規職員の募集は現時点ではないという方針で進んでいます。今、青垣の現状では調理員 12 名が必要ですので、会計年度任用職員を含め人数の確保をしています。これも、現状であったり課題であったりしますので、このような記載になっております。

(農林振興課長) 地産地消が進まないのは組織づくりが十分ではないということなのかということでしたが、5 章の「具体的な取組について」の策定案を考えていく中で、農林振興課としましても、積極的に実践的で効果的な取組について考えさせていただきたいと思っております。

(足立会長) ありがとうございます。

(委員) 事務局、先程の青垣学校給食センター調理員の正規採用はないとい

うことでしたが、正規ではなく非常勤で採用するということはもう決まっているのですか。それでそう書かれているのですか。

(足立次長) 現時点での方針なのかと言われれば、そうです。定年を迎えられた正規職員の補充募集は行わない。会計年度任用職員で対応していくというのは今回に限ったわけではなく、第2次計画の時もこの方針です。

(足立会長) 私の解釈としましては、青垣学校給食センターの食数が減ってくる中で民間委託という策が出てくるのだと思います。仮に民間委託になると正規職員をいつまでも雇用し続けるのは困難な状況にあるのではないかと思います。委託になった後も正規職員を雇用し続けるとなると職員は任用替えするしかない。委員のご意見は一つの意見として承りますが、市の方針としては先程からの足立次長の説明のとおりということですか。よろしいですか。

(委員) 令和23年には、正規が3名、非常勤が9名になるとありますが、正規職員を採用する方針はないということですか。

(足立次長) 先程の繰返しになりますが、これから先、児童生徒の減少と共に給食数も減少する中で、3つのセンターを維持していくのか、それとも2つのセンターに集約するのかは、これから検討していかなくてはなりません。既に、柏原・氷上学校給食センターと春日学校給食センターは民間委託で調理業務を運営しております。そういった民間委託への転換も今後は検討していかなくてはならない中で、正規職員退職後の補充は難しいということですか。運営する側としては、委員さんが言われますようにそうしていきたいところもありますが、市全体の適正化を考慮すると難しいということですか。

(委員) 青垣学校給食センターを柏原・氷上に集約するのですか。青垣を直営で残す案はないのですか。そこまではっきりとは決まっていないのですか。

(足立次長) はい、そうです。今後の課題としての検討事項です。

(委員) 青垣学校給食センターの件は、今日、これで通すと認めたということになるのですか。

(足立会長) 青垣学校給食センターをどうするかということ協議する場ではございません。この場でどうするかと決定することは出来ません。意見として出していただいたら結構です。オーガニックの件でも、科学的根拠がないのに反対という意見もありますし、各委員のご意見として出していただいたらよろしいと思いますが、但し、ここに決定権はありません。ご了承いただきたいです。あくまでも学校給食を運営していく上での計画について協議をしているわけですので、この場で市の施策を決定するというものではありません。

(委員) 先程からいろいろとお話をされているのですが、今日、私が感じましたことは、資料4頁からの現状と課題というところに関して、これが課題だとは言い切りにくく、現状を維持しつつ、しかも、より効果的に進むように食育推進とか、食材の購入、センターの維持等、いろいろな事項に関して現状と課題を出していく必要があると思いました。その一つとして11頁の青垣学校給食センターの件が出てくるのではないかと思います。これも少子化のあおりを受け、子どもの数が減ってきているのですから当然に食数も減る、その時にどういった対策を取る必要があるのかということが課題として提起されているのかと思います。即この場で青垣学校給食センターを今後も維持するとかしないかを決定するのではなく、いろいろな現状と課題から計画を立てられるわけですから、その計画に実効性を持たすために、今回「現状と課題」としてここに挙げられているのだと思います。

また、先程のアンケートからも2つのことを感じました。食育は、当然、学校教育の中で進めていかなくてはならないもので、進めていくのですが、こうすれば良い食育になる等、なかなか結果が目には見えにくく、一つ一つ手探りで、子どもたちの生活や環境に良い影響が与えられるよう実践していきたいと感じています。もう一つは、牛乳についてです。アンケートにも牛乳に関する記載が多くありましたが、学校現場においても同じくで、牛乳が良い悪いということではなく、飲み残しに苦慮しています。夏場は飲みやすいので比較的飲み残しが少ないですが、冬場になると残りがちです。これをどのように対処していけばよいものかと考えています。

(足立会長) ありがとうございます。

また、給食調理員の状況につきましては様々な意見がありましたが、市の方針を転換させることができるかということ、私は困難だと思います。現状に対してどのように計画して、青垣だけでなく、市全体として安定的に学校給食を提供するにはどのように取り組んでいけばよいのかということは今後も協議したいと思います。その協議は続きますので、協議を打ち切るということではございません。よろしいですか。

(委員) 納得し難いです。

(足立会長) 運営協議会は方針を決定する場ではありません。決定権は、市当局や議会にあります。運営協議会はあくまでも計画について協議をする場です。ご理解いただきたいです。

(委員) 認めたということではないが状況としては理解しました。

(足立会長) ありがとうございます。

(委員) アンケート調査についてです。5年に1度のアンケートを実施していただき、保護者から意見やお気づきの点がたくさん出ていました。今後、この意見を汲み取り、もう少し深くグループ毎にまとめられたら良いかと思うのですがいかがですか。委員の中で希望者だけでもよ

ろしいので、父母の気持ちを読み取るグループ討議はいかがですか。

(足立会長) ありがとうございます。ご意見として承ります。

(足立次長) このアンケート調査結果につきましては、本日の会議資料として、市のホームページにおいても公表します。

(委 員) この運営協議機の中で、アンケートについてグループ討議をしてはどうかということです。

(委 員) 結果は結果であり、アンケートは様々な方のご意見なので、それを読み取ることは時間の無駄ではないですか。それは自己満足です。

(足立会長) アンケート結果は公表もされますし、また結果の活用については、センターの施設長や栄養教諭の先生の中で参考にいただき、活用していただけたら良いと思います。

(委 員) このアンケートは貴重なものなのです。

(足立会長) 個人的に各自で結果を読み取り勉強する人がいても、それはよろしいかと思います。

(委 員) 他で公表しても良いということですね。

(足立次長) 冒頭にも申しましたように、この運営協議会自体が公開で開催されています。後日になりますが、資料とアンケート結果も会議録と共に公開します。また、当然、アンケート結果は基本計画の今後の取組や、期待される効果に活かされていくものと思っておりますので、取り入れられるものは取り入れていければと思っております。

(足立会長) ありがとうございました。
他にご意見等がなければ議事については終了にしたいと思います。

次第

4 その他

(足立会長) それでは、事務局、次回の予定をお願いいたします。

(足立次長) 次回の運営協議会につきましては、9月15日(木)開催で提案をさせていただきます。

(足立会長) 次回の日程は、9月15日(木)、場所は今回と同じでよろしいか。

(委 員) はい。

(足立会長) また、本日ご欠席の柏原地域PTAの岡委員より今回の議事等につ

きましてのご意見が事務局に届いておりますのでお配りいたします。
それでは、中澤副会長より閉会のあいさつを申し上げます。

次第

5

 閉 会

(中澤副会長) 委員の皆さま、遅くまでお疲れ様でした。

丹波市学校給食運営基本計画策定にあたって、現状と課題についてご協議いただきました。学校給食というのは、決して給食の中身だけのことではなく、それを支える施設とか職員等の現状や課題が山積しているということでした。その中でも、食育についてたくさん出てきておりましたが、学校給食における食育の役割の大きさを改めて認識しました。

余談になりますが、本日、月1回の栄養教諭定例会に出席してきました。今日は給食の新メニュー開発の試食会もあり、私も試食をさせていただきました。かんぴょうのお汁、チキン南蛮、ならえ等、初めて聞くメニューもありました。地域の特産物を使った郷土料理等、栄養教諭の先生方がそれぞれに自分で勉強してこられ、9品の試食をしました。その中で、チキン南蛮が宮崎の郷土料理だと初めて知りました。とても美味しかったです。このようにして、子どもたちの笑顔や栄養バランスを考えながら試作された新メニューが、今後、子どもたちの給食に並んでいくのかと思うと大変にうれしく思います。

次回運営協議会におきましては、「計画の基本的な考え方」、「具体的な取組」についてご協議いただきます。アンケート調査の結果も活用しながら実効性のある計画が策定できますよう、委員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

本日は遅くまでお疲れ様でした。ありがとうございました。